

# 情報文化 学生瓦版

2016年8月25日  
長崎研修2016

⑤ 平和・歴史研究の巻

発行	情報文化学科
編集長	寺田 スワジンジャ
顧問	神部 ヤサカジンジャ 山口 ワカマイナリ
学生	関口 イサハヤジンジャ 石橋 コウフクジ 大木 ソウフクジ 佐藤 フクサイジ 小泉 ショウトクジ



八坂神社  
研修 長崎「平和」「歴史」研究  
長崎研修、2回目以降の人たちで研究班を結成した。平和の尊さと大切さ、そして歴史に名を遺した人物の研究をし理解を更に深めた。2面

## 長崎の「平和」・「歴史」を更に詳しく！ 平和の尊さと大切さ・梅屋庄吉を知る

「平和班」は原爆や戦争について調べ、平和について学んだ。まず、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、次に城山小学校、山里小学校を訪れた。

原爆死没者追悼平和祈念館には、死没者名簿と遺影、手記・体験記などの資料がある。そこで「被爆体験を語り継ぐ永遠の会」の宮下幾久雄さんに被爆体験と戦争体験について綴られた本の2種類を朗読して頂いた。

被爆体験は、当時4歳の男児の被爆した後の生活について綴られていた。被爆時に足が怪我し、真っ直ぐに歩くことが困難となってしまうが、学校ではそれを理解してどうもなかった。被爆者だからという理由で、義父にも結婚を反対された。反対を押し切って結婚したが、被爆者の子どもの産めないという妻に言われ離婚せざるを得なかった。

戦争体験は、戦争に召集された男性が見た世界と、自分の犯した罪についてつづらられ、91歳の時に提出されたものである。「今の日本の法律なら、13犯は罪を犯している」、「一人の心は簡単に鬼に変わる」。語るのも辛い体験をこれからの平和のためにとつづって下さったという。

宮下さんは他にもこの戦争によって人びとの生活がいかに変えられてしまったかについて、私たちに問いかけながら語って下さった。また、平和が何から始まるのかについては、一方通行に自分の言いたいことを言うのではなく、賛成反対は関係なく、相手と「会話」をする事で交流をして理解することが平和の始まりだと伺った。

次に訪れた2つの小学校のあちこちに、当時の小学生に対して、これからの平和を誓い、祈りが込められている場所があった。聞いていてはただでも体が震えてしまう、恐

ろしい現実の中で生きた人たちの強さを感じながら、長崎の方があたたかく接して下さるのは、根底に平和を祈る心があるからなのだと感じた。(小泉 ショウトクジ)

私達、今年の「歴史班」は、長崎生まれの実業家「梅屋庄吉(1869-1934)」の研究を行った。梅屋は映画会社として日本で最も古い日本活動写真株式会社(現東宝)の創設者の一人として有名であるが、中国で辛亥革命を指揮した孫文の生き様でもあった。長崎にゆかりのある人物の支えをしっかりと研究したいとメンバーは張り切って現地に向かった。

まず旧香港上海銀行長崎支店記念館(長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム)を目指した。実はここには、二度訪れることになる。一度目は休館で断念し、二度目によりやく入場できた。私達の研究はここからスタートした。

当時を物語るこの3階建ての建物の中には、梅屋の生い立ちと孫文について展示されていた。梅屋の実家は長崎市西浜町にある。その近くには鉄橋が架かり、すぐそばには、土佐商會があった。この土佐商會は、後に三



歴史班メンバー



平和班メンバー



作:石橋 コウフクジ

菱造船所を興した岩崎弥太郎が主任として駐在した。梅屋家は土佐商會の家主であった。

梅屋は困った人がいると放って置くことが出来ない性格であり、「猫魂が宿る少年」と呼ばれていたそう。これは長崎独特の表現であり、強運の持ち主という意味だ。この強運で幾度も困難を切り抜けていく。まず24歳で、香港で始めた写真館を成功させる。その後、シンガポールで映画興行を始め、またも成功を収める。これらで挙げた収益を孫文の革命援助資金に充てていく。香港で出会った二人だが、梅屋は孫文の革命にかける情熱に心を打たれたのだ。展示資料から、昔から長崎は中国と関わりが深かった事を改めて理解し、同時に孫文がどのような人物だったのか非常に興味を持った。

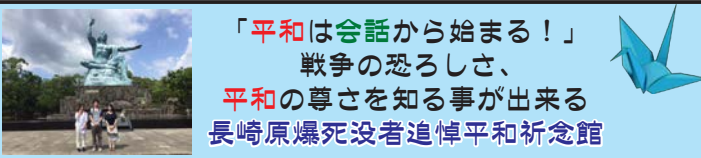
この研究を通して、梅屋庄吉の情に厚い姿に感銘を受け、自分の生き様について考えさせられた。そして、彼のようなスケールの大きな人間になれるよう、勉学のみならず様々な事に積極的に挑戦し日々精進していきたいと決意した。(寺田 スワジンジャ)

### 英語でひとこと 【There is kindness to be found everywhere.】

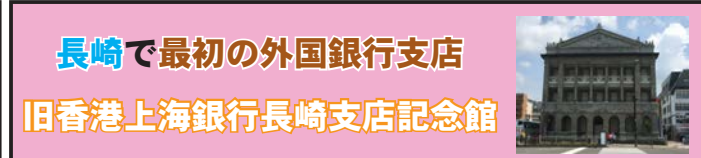
これは、「渡る世間に鬼はなし」という意味だ。1日目のオリエンテーリングでは、しばしば現地の方々困っている私達を見出し親切に道を教えて下さる。長崎の人は情に厚く、親切だと感じる。梅屋庄吉は、お店の売り上げを持ち出し貧しい人に配った。また、町の人に対してゆすり、たかりをする悪党グループ相手に大立ち回りを演じるなど、困っている人を見かけると放って置くことが出来ない性格だった。孫文の革命にかける情熱を知り、「君は兵を挙げたまえ、我は財を挙げて支援する」という盟約を結ぶ。そして、孫文が亡くならぬように、財産を注ぎ込み、孫文の銅像4体を制作し中国に寄贈する。困っている人を見かけたら助けられる積極性を常に磨いていきたい、長崎の人のように。(佐藤 フクサイジ)

### 平声和語 (へいせいご)

これまで、原爆による被害はテレビや新聞などのメディアによって、知っているつもりになっていた。しかし、原爆が残した爪跡や、戦争の恐ろしさについて私達は十分にわかっていないことを突き付けられた。今回、長崎研修で、我々平和班は戦争の恐ろしさと平和の尊さについて研究した。資料館や小学校で見た被爆当時の写真は、あまりにも残酷で目を背けなくなるものもあった。戦争をしてはいけない」という長崎の人々の声は、今まで聞いたどの戦争反対の言葉よりも、強く心に響いた。私たちが廻った場所には、沢山の人の想いが詰まっていることを実感した。同時に、それを私たちが語り継がなくてはならないと決意した。私たちは戦争があった時代を想像しながらもう一度、長崎を見つめ、平和な世界を願うこととしたい。(関口 イサハヤジンジャ)



「平和は会話から始まる！」  
戦争の恐ろしさ、  
平和の尊さを知る事が出来る  
長崎原爆死没者追悼平和祈念館



長崎で最初の外国銀行支店  
旧香港上海銀行長崎支店記念館